

中学3年生激励動画 原稿文

1. 高校教育課 山本康義課長 「次の進路に向かう中学3年生の皆さんへ」
2. 市立浦和高等学校 吉野浩一校長 「様々な進路と高校での生活」
3. 市立大宮北高等学校 竹越利之校長 「悩みや不安の解消へのアドバイス」
4. 市立浦和南高等学校 上原一孝校長 「世界が広がるチャンス」
5. 市立大宮国際中等教育学校 関田晃校長 「嵐が去った後には」
6. 教育委員会 細田眞由美教育長 「親愛なる中学3年生へ」

高校教育課 山本康義課長

「次の進路に向かう中学3年生の皆さんへ」

皆さん、こんにちは。さいたま市教育委員会高校教育課長の山本です。中学校卒業後の進路の決定について、毎日頑張っていることと思います。

さいたま市教育委員会は、高校3校、中等教育学校1校を設置しています。今回、この4校の校長をはじめ、私と、以前大宮北高校の校長であった教育長との6名で、皆さんを激励するメッセージ動画を作成しようということになりました。

なぜ作成しようということになったかということ、これまで誰も経験したことがないコロナ禍で、様々な大会や行事が中止になるなど、皆さんの中学校での生活が大きく変わってしまったのではないかと、このような中で、皆さんの多くが、ことばでは言い表せないような、進学や就職に対する不安や心配事を抱えているのではないかと、そのように考えたからです。そんな皆さんへの励ましやアドバイスになればと思い、この動画を作成しました。

トップバッターは私、高校教育課長の山本です。私は、今年の3月まで、県立の工業高校で校長を務めていました。皆さんの中には、工業高校や商業高校などの専門高校への進学を考えている人も多いと思います。これからの社会は様々なものがインターネットに繋がり、ロボットも活躍する、便利な世の中になると言われています。そこで求められるのが「技術」です。工業高校や商業高校などの専門高校で、「技術」を身に付けようと考えている皆さんは、確実に時代の最先端を走ろうとしています。そんな皆さんを、私は全力で応援しています。大丈夫です。安心して準備を進めてください。

この後、4名の校長先生、最後に教育長のメッセージが続きます。

市立浦和高校 吉野浩一校長

「様々な進路と高校での生活」

さいたま市立浦和高等学校 校長の吉野です。

中学3年生の皆さん、高等学校には、普通科、専門学科、総合学科、そして、全日制、定時制、通信制の課程があり、皆さん一人ひとりの進路希望に合った学校が必ずあります。

コロナの影響により、学校生活が思うように進まず、不安や焦りから、落ちつかない日々を過ごしている人もいるでしょう。

高等学校に入学すると、新しい仲間と、学び合い、励まし合い、そして、自分の将来を考えながら夢を育み、さらに、一生付き合える友達にも出会うことでしょう。

皆さんは今、進路選択や受験勉強で大変だと思いますが、うまくいく、いかないにかかわらず、その努力は、将来の自信に必ずつながりますから、自分らしさを大切に頑張り、今を乗り切ってほしい、と願っています。

すべての高等学校が、皆さんの入学を楽しみに待っています。

大宮北高等学校 竹越利之校長
「悩みや不安の解消へのアドバイス」

さいたま市立大宮北高等学校 校長の竹越です。

生活していく上で、人は誰でも悩みや不安は持っています。中学3年生の皆さんにとって、今の時期は、悩みは尽きないと思います。特に、迫ってきている高校選択や高校受験に対して、考えれば考えるほど不安になってくるでしょう。

悩みや不安を感じるのは、皆さんが自分の目標に精一杯向き合っている証拠です。そして、そうした試練を乗り越えることで、皆さんは間違いなく成長できるのです。

そんな悩みや不安を一人で抱え込む必要はありません。一人で乗り越えるのが難しいときは、助けを求めればよいのです。辛いときは「辛い」と言いましょう。悲しいときは「悲しい」と言いましょう。

思っていることを言葉にして話してみると気持ちが楽になると思います。身近な人に話しましょう。皆さんの周りには、気持ちを受け止め、話を聞いて、相談にのってくれる人が必ずいます。

高校入試が終わった後には、新しい世界が見えてきます。私たちは、夢と希望に満ち溢れた皆さんの高校生活を応援します。

浦和南高等学校 上原一孝校長

「世界が広がるチャンス」

さいたま市立浦和南高等学校 校長の上原です。

高校時代は、人生においていろいろな出会いの時期です。中学校と違い、行動範囲、活動内容など新しい世界が一気に広がります。

よく「自分のやりたいことをやりなさい」と言われると思いますが。やりたいことは、知っていることの中からしか生まれません。高校時代は、知っている範囲をドンドン広げてもらう時期です。

同じ時を刻む。同じ場所に立つ。けれども、同じ人なんていません。人の数だけ、過ごし方があります。皆さんの未来を自分で広げましょう。

大宮国際中等教育学校 関田晃校長

「嵐が去った後には」

大宮国際中等教育学校 校長の関田です。

去年の大晦日に、あるアイドルグループが活動を休止しました。テレビ中継に出演した彼らは、曲の合間にメッセージのリレーをしました。その時の言葉を借りて、皆さんへのメッセージとします。

いま、時代の風は容赦なく私たちに吹き付けているかのようです。戸惑い、絶望に襲われることもあるでしょう。どうしたらいいか分からず、呆然とすることもあるでしょう。

でも、戸惑い、絶望し、呆然とすることで、私たちはもっともっと深い悲しみに苦しんでいる人に、思いを寄せることができるようになります。

たとえ叶わない夢であっても、それは私たち一人一人の掛け替えのない歴史の一部です。そこには、これまでに学んだ知恵や勇気、慰めや思いやり、すべてしっかり記しておきましょう。

嵐が去った後に、虹のかかった美しい空が、どうか皆さんの前に広がりますように。明けない夜はないと信じて。

教育委員会 細田眞由美教育長

「親愛なる中学3年生へ」

中学3年生の皆さん、こんにちは。

さいたま市教育長の細田眞由美です。

校長先生方のメッセージはいかがでしたか。さいたま市には市立高校が3校ありますし、私も含めて、高校の校長を勤めたことのある先生が6人もいますので、心のこもった熱いメッセージを、参考にしていただけるといいなあと思います。

さて、皆さん。現在日本には、どれくらいの中学3年生がいますか？

さいたま市立中学校に通っている中学生が約1万人、埼玉県で約6万人、全国で約100万人もいるんです。そして、毎年毎年、中学3年生が義務教育を終え、次の進路を考えます。

特別な人だけが通る道ではなく、皆が自分の進路に対して本気で考え、自分と向き合っています。

そしてそれは、誰一人同じプロセスではなく、毎年毎年100万通りの自分との向き合い方が存在しています。

しかしながら、2020年、2021年は様子が大きく変わりました。突然、世界を襲った新型コロナウイルスの感染拡大は、今私たちが住む社会が「当たり前」だと信じていたことが実はそうではなかったことを実感させました。

学校生活にも様々な影響がありました。臨時休業、分散登校、そして新しい生活様式の中で、部活動の制限、修学旅行や体育祭などの学校行事の中止や延期。

皆さんたちは、中学時代の3分の2をコロナ禍の中で過ごしていく、これまで誰も経験したことのない中学生となってしまったわけです。

でも、あなたたちは本当によく頑張りました。

中止、自粛、制限の連続の学校生活の中で、『いつも通りにできないならば形を変えて何とかしてみよう』と前向きでした。

制限ばかりで子どもたちがかわいそうという世の中の声に対するあなたたちの答えは、『私たちは、幸せや満足は自分で創るよ』という姿でした。

その言葉どおり、なんでもやってのけた3年生。あなたたちの何度でも立ち上がる姿がまぶしかったですよ。

さあ、そんなあなたたちは、今、自分の将来のために大きな一步を踏み出す準備に入っています。不安ですか。

とりわけ、世の中の大人たちが「予測困難な未来社会」などと不安をあおるようなことを言っているのです、私たちの未来はどうなってしまうのか！と心配ばかりが募りますね。

でも、大丈夫です。有史以来、私たち人間は、常に将来を予測して、不安に対処することで、進化を続け、生き延びてきたと考えられています。

ですから、将来に不安を感じるのは本能であり、自分の身を守る大切な機能です。

加えて、予測困難な今の時代に、まさにコロナのような予想外の出来事で、将来に対して不安を感じるのは自然な心の反応です。

さて、皆さんの「不安」の正体を具体的に分解してみますと、自分の進路を実現していくためにこのままの勉強で大丈夫なのだろうかという心配や、今、頑張らなくちゃということはわかっているんだけど、いまいち、やる気が起きないなあという鬱々とした気持ちではないでしょうか。

当たっていますか。

実は、みんなそうなんです。

さっき、日本中の100万人の中3生が、それぞれのやり方で自分と向き合っていますってお話ししましたよね。

毎年毎年100万通りの葛藤を経て、それぞれの進路を実現しているのです。

そして、皆さんには、心強い味方がいます。皆さんとともに走ってくれている家族、先生、友達です。不安なことや心配なことがあったら相談してみてください。

人間は、漠然とした不安を言語化するだけでとても安心するものです。そうです。皆さんは、決して一人ではないのです。

最後に、親愛なる皆さんへこんな言葉を贈ります。

「諦めたらそこで試合終了ですよ」

ご存じの方もたくさんいると思います。高校のバスケットボール部を題材にした漫画「スラムダンク」の有名なセリフです。

試合が終わる 12 秒前に 1 点差で負けているという状況に諦めかけていた三井に、安西先生がこの言葉を発します。

私は、長い間、高校や中学校に勤務していて、多くの受験生の様子を見てきましたが、この安西先生の言葉は、そのまま受験にピッタリ当てはまると実感しています。

皆さんは、最後の最後まで伸びます。受験会場でも伸びます。本当です。最後まで諦めずに挑戦し続けた人が、人生の宝物を手に入れます。

過去を振り返っても仕方ありません。未来は何が起こるのか誰にもわからないので、今やれることをしっかりやる。やり続けて、やり抜くことで、今まで想像もしなかった場所にたどり着くことができます。

私は、皆さんのことを全力で応援しています。何より、今の自分を大切にしてください。

今、しっかり向き合っていれば、皆さんに幸せが訪れることでしょう。

中学校の校長先生、子どもたちに寄り添ってサポートやご指導してくださっている先生方、そして最も身近で見守ってくださっているご家族の皆様、引き続き子どもたちをよろしく願いいたします。